

向陽台サッカースポーツ少年団

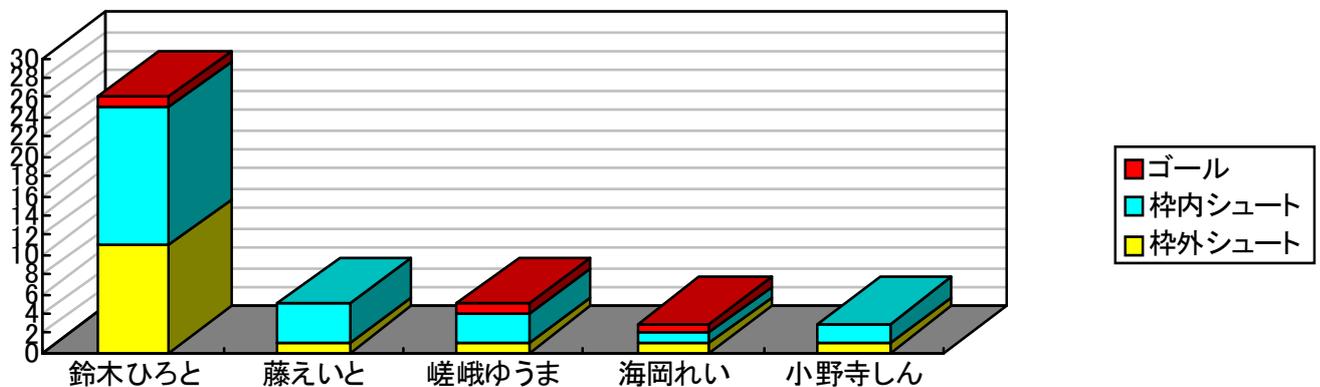
1次ラウンド 1試合目

向陽台サッカースポーツ少年団 VS アスクラロ札幌U-12

前半	2	-	2
後半	1	-	0
	3	-	2

向陽台 総シュート数 42本 (うち 枠内シュート 25本 得点3点)

アスクラロ 総シュート数 35本 (うち 枠内シュート 20本 得点2点)



自チームはこれまでどおり、ダイヤで鈴木をピヴォ、右アラが海岡、左アラが藤、フィクソに嵯峨、ゴレイロが小野寺で、守備の時は左アラの藤が下がるというフォーメーションで挑む。

対するアスクラロはボックスで前の2人が大柄なタイプの選手で前線の2人で攻め上がってくる感じの攻撃パターンだった。

前半開始直後、いつもどおり立ち上りの集中力の欠如から失点をするが、徐々に落ち着きを取り戻し、キックインシュートのこぼれ球を鈴木が押し込み同点に追いつく。

その後、相手チームのロングシュートがゴレイロ本人も悔やむ弾きミスで決まってしまう失点するが、コーナーキックをゴレイロが受け、右アラのポジションへローテーションした嵯峨へ渡し、嵯峨がダイレクトでミドルシュートを決め同点に追いつき前半終了。

後半は、鈴木がシュートを多く打つ (後半だけでシュート数 15本) が相手ゴレイロのファインセーブが重なり (枠内シュート 10本) 膠着状態が続く。

残り2分のところで、海岡が相手ゴレイロのスローミスをカットしシュートを突き刺し、そのまま3対2で勝利する。

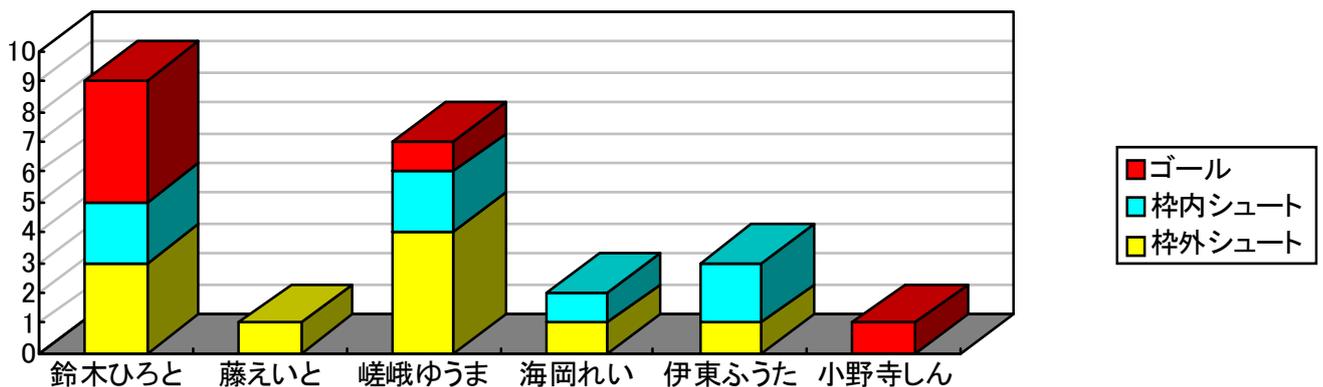
相手チームは前線の大柄な2人にあてて、パワーで押しってくるパターンが多く、力負けし交わされゴレイロと1対1にされるシーンが多々あったが、ファーサイドへの詰めは少なく、そのままシュートでくることが多かったためゴレイロがうまく対応でき、枠内シュート 20本に対し2失点で抑えることができた。

1次ラウンド 2試合目

向陽台サッカースポーツ少年団	VS	室蘭大沢 FC	U-12
前半	0	-	4
後半	6	-	3
	6	-	7

向陽台 総シュート数 23本 (うち 枠内シュート 13本 得点6点)

室蘭大沢 総シュート数 39本 (うち 枠内シュート 25本 得点7点)



自チームは1試合目と同じメンバーでスタート、対する室蘭大沢はボックスで、大柄な選手はいないものの、全員のスキル・体力が優れている印象。

前半は相手チームの個々のスキルの高さ・プレスの速さから全く攻撃をさせてもらえない状態 (前半 総シュート数7本【うち枠内シュート1本】) で防戦一方の展開、ゴレイロもファイブセーブを連発するが総シュート24本 (うち枠内シュート18本)、4失点で前半を折り返す。

後半は点差が開いたためか、相手チームに凡ミスが目立ち鈴木の連続ゴールで追い上げる。1点返されるが、嵯峨のキックインシュートが入り5対3となったところで、自チームの藤が接触プレーで足を負傷し交代を余儀なくされる。

その後も追い上げ鈴木が追加点、ゴレイロの小野寺が相手陣内深くのキックインのパスを、ダイレクトで叩き込み5対5の同点に追いつく。

しかし追い上げもここまで、最後は明らかにチーム力の差で2点を入れられてしまい、ラスト20秒で鈴木が1点返すも結果6対7で破れ、グループリーグ敗退となる。

上記シュート数のお通り、点差以上に実力差は歴然としていたが、0対4の状況からも最後まで諦めず1点差まで追い詰めた粘りは目を見張るものがあった。

接戦になっても最後まで諦めない姿勢は、千歳地区予選での激闘で身に付いた賜物ではないかと感じた。